

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和6年度
意見交換会(第1回)**

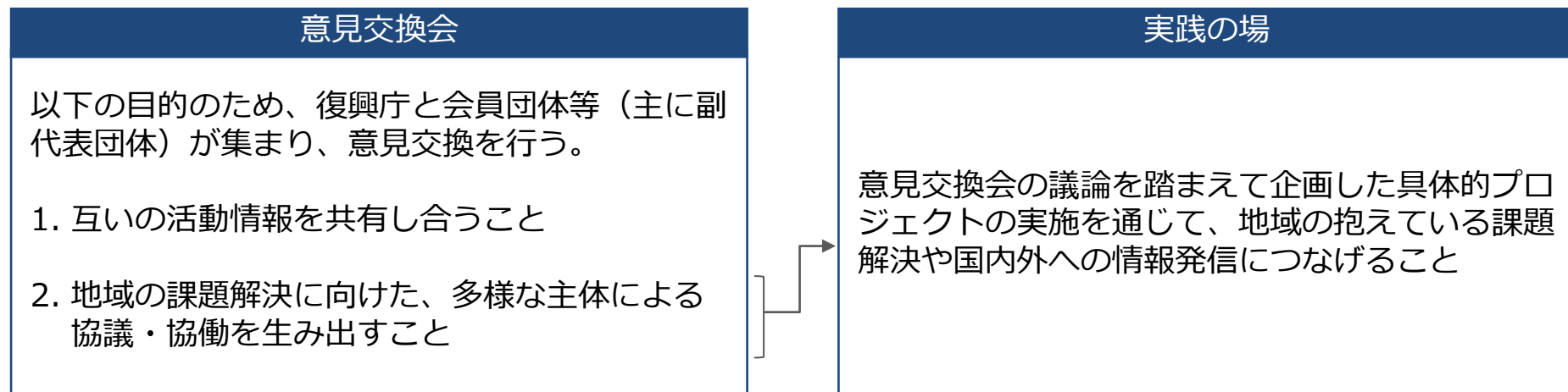
岩手県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2024年7月4日

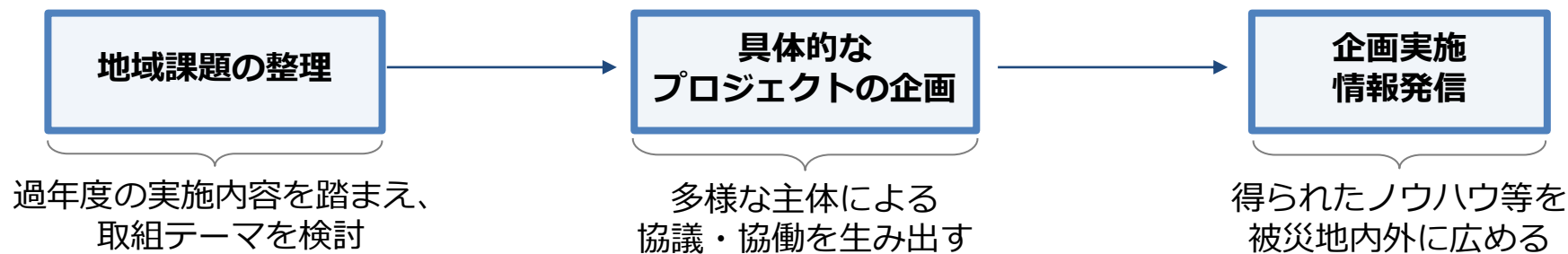
1. 意見交換会・実践の場の全体像

■ 意見交換会・実践の場の位置づけについて



■ 今年度の進め方について

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続
- ・ 昨年度と同様に、**具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、多様な主体による協議・協働を生み出す**
- ・ 単年度のためのイベント実施に終わるのではなく、**企画にかかわった方の継続的な関係性の構築など、地域や被災地外に何か（＝ノウハウ）を残す**ことができるような取組を目指す



● 2. 過年度実施状況：全体像

- 岩手県のこれまでの取組では、「**関係人口の増加**」に着目して取組を実施
- 令和5年度の実践の場では、3拠点（久慈・宮古・陸前高田）の若者カフェを中心に、それぞれの地域の観光・地域振興の分野で中核的な役割を果たし、**沿岸部のエクスカージョンプログラム**を検討

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
テーマ	関係人口増加から生まれる価値と、関わりを生むためのプロセス	三陸沿岸の地域経済の担い手支援	東日本大震災から10年目にあたって	関係人口を活用した集中的な地域の魅力の磨き上げ、PR、モデルづくり	関係人口を活用した持続可能な地域づくり	三陸沿岸の復興の姿や魅力を知ってもらう企画作り
実践の場	「関係人口×〇〇で考える三陸の未来」（宮古市） ブースセッションとパネルディスカッションによって、複数の切り口から、関係人口増加の価値や関わりを生む仕掛けづくりを紹介	「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします～」（大船渡市） 企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダーに対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援するため、支援策の特徴や活用事例を紹介するセミナーと交流会	「いわて沿岸とつながる交流会－これまでの10年を未来の力に－」（陸前高田市） これまでの復興活動の思い出や、伝承していきたい大切な記憶・教訓を振り返り、共有し合い、また、教訓・つながりを活かして今後取組たいことや目指したいことのアイデアを共有	「釜石の今と未来を考える 座談会」（釜石市） 地域の課題に挑戦している事業者の（有）宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎 昭子氏とともに、地域の今までの歩みやこれからの発展について協議。これら協議の結果に関する意見交換をする場として「釜石の今と未来を考える 座談会」を開催。	「みちのく潮風トレイル体験から三陸沿岸地域の復興の姿を知るエクスカージョンプログラムモニタリングツアー【宮古コース編】」 一般社団法人 浄土日和とともに、みちのく潮風トレイルを活用し、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定した、モニタリングツアーを実施。	「行きたい！」「会いたい！」を実現する 三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知るをテーマにした参加する学生・若者向けの三陸沿岸学び旅・交流プログラム 内陸部の学生・若者に沿岸部の震災復興の姿や魅力を伝え交流を図る取組

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

令和5年度の実践の場の企画内容

タイトル		企画から訪問まで、「行きたい!」「会いたい!」を実現する 三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知る“ 三陸沿岸学び旅・交流プログラム ”
企画趣旨		・震災から12年が経過する中、震災後、復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上により、内陸部から沿岸部へと訪れるための時間は減少したものの、震災後にあった内陸部から沿岸部への支援や交流が徐々に減少している。また、震災から12年間経過する中での、特に若年層においては震災の記憶が風化してきている状況にある。 ・こうした状況を踏まえ、今一度、岩手県の内陸部の学生・若者に三陸沿岸の復興の姿や魅力を知っていただくため、学生・若者自身に、三陸沿岸の事業者とも協議しながら、オリジナルの三陸沿岸ツアーを考えていただき、実際に三陸沿岸部に訪問いただく取組を実施する。
参加者		岩手県内外の若者（大学生・社会人）7名
企画内容	事前のワークショップ	・若者にオリジナルの三陸沿岸ツアーを考えていただくワークショップを開催 開催日：10/14（土）13時～15時 場所：若者カフェ（盛岡市内）
	ツアー当日	・11/25（土）・26（日）に1泊2日のオリジナルの三陸沿岸ツアーを開催 ・各ツアーの最終訪問先は沿岸各地の若者カフェの連携拠点（久慈、宮古、陸前高田）の協力により設定 ・行程の最後に各地からのオンラインで、参加者・現地事業者・交流人口創出等に係る外部有識者を交えて約1時間半の全体の振り返りMTGを開催

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

○ 大船渡・陸前高田エリア 参加者：県内大学生1名、県外大学生1名

11/25 (土)

10:08 盛岡駅 → 新幹線 → 水沢江刺駅 → 車 → 碓石海岸レストハウス

訪問・体験① 大船渡ガイドの会・碓石海岸ガイド (13:30~14:30)

- ・ 大船渡まちなかガイド会の方に碓石海岸海岸をご案内頂く
- ・ 碓石のような礫が積み重なった碓石海岸や、ジオパークにも指定されている複雑な地形を構成している自然のチカラを見学



訪問・体験② キャッセン大船渡/かもめテラス (15:30~17:35)

- ・ まちづくりプロデューサーの千葉さんの講話
- ・ 「防災×観光アドベンチャー」を実際に体験
- ・ クリスマスの雰囲気 decorateされた「かもめテラス」では銘菓カモメのたまごの歴史や、佐々木朗希の偉業などを見学



訪問・体験③ 大船渡温泉社長から震災に関する講話 (18:30~19:00)

- ・ 大船渡温泉にて志田社長の講話
- ・ 「被災者や復興のために働く人たちをお風呂に入れてあげる『銭湯』が大船渡温泉の設立コンセプト」という社長の想いと情熱に胸を打たれる
- ・ 「大船渡温泉が復興のシンボルと思って貰えるのがうれしい。大船渡の観光振興のお役に立ちたい」と志田社長



宿泊：大船渡温泉（夕食：キャッセン大船渡）

11/26 (日)



訪問・体験④ 東日本大震災津波伝承館 (9:10~9:45)

- ・ 高田松原津波復興記念公園内を散策「奇跡の一本松」などを見学
- ・ 町全体を飲み込んだ津波の破壊力を感じる
- ・ 陸前高田大震災津波伝承館で被害の規模と復興の道のりを学習



訪問・体験⑤ ワタミオーガニックランド (10:00~10:30)

- ・ ワタミオーガニックファームで、復興×農業の取組を学ぶ



訪問・体験⑥ 陸前高田 発酵パーク CAMOCY (11:00~13:30)

- ・ カモシー阿部店長からカモシーの成り立ちとコンセプト、今後の展望について講話頂く
- ・ 事前学習でひととおり学んだものの、次から次へと出てくる未来の構想のお話しに驚嘆
- ・ 「もはや復興のステージではない」という言葉の重みを感じる



※ 紫枠の事業者とは事前にオンラインミーティングを実施

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

○ 久慈エリア 参加者：県外大学生1名、県内社会人2名

11/25 (土)

10:39 久慈駅 三陸鉄道リアス線 → 普代駅

昼食・散策 道の駅 青の国ふだい (11:25~13:00)

- ・ 地域おこし協力隊の中村さんが、ご自身で作られた野菜などをアビーロード商店街で販売されているところに遭遇
- ・ そのお野菜で作った豚汁をいただきながら、有機農業の取組や農業法人設立にチャレンジされているお話などを伺う



見学・体験① 体験村たのはたネットワーク (13:30~17:00)
大津波語り部&ガイド/塩づくり体験

【津波語り部】

- ・ 震災前と直後、そして現状の街並みの変化や、震災当時の様子を解説
- ・ 杜氏の状況などを写真と共に街を歩きながら詳しく教えていた



【たのはた・塩づくり体験】

- ・ 番屋の塩作りの歴史から作成方法まで説明を聞く
- ・ 海水を煮詰めるための薪割りから、塩を乾燥させる工程まで体験
- ・ 一般的な食塩との味比べも面白かった



↓ 三陸鉄道・車

宿泊：市内ホテル(夕食：市内飲食店)

11/26 (日)



見学・体験② 久慈琥珀博物館 (9:00~10:00)

- ・ 久慈琥珀博物館では琥珀の歴史や久慈琥珀の希少性を学ぶ
- ・ 世界唯一の見学用琥珀坑道跡を見学
- ・ 実際の採掘作業を体験



見学・体験③ 久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ (10:30~12:00)

- ・ もぐらんぴあでは宇部館長よりご案内いただく
- ・ 震災当時の状況、その後の復興にあたってはさかなくんをはじめ、多くの方の支援があったこと、再建には震災の教訓が活かされていること等について詳しく説明をいただく
- ・ 南部ダイバーの実演も見学



※ 紫枠の事業者とは事前にオンラインミーティングを実施

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

○ 宮古・釜石エリア 参加者：県外大学生2名

11/25 (土)

8:00 仙台駅 → 新幹線 → 新花巻駅 → 釜石線 → 釜石駅

昼食・散策 釜石駅周辺

(11:00~12:00)

- 釜石駅より釜石漁港・防波堤付近を散策し、震災による津波が押し寄せた様子を改めて見学
- 釜石の炭鉱労働者たちが好んだ「釜石ラーメン」で昼食



↓ 三陸鉄道リアス線

訪問・体験① 山田町観光協会・牡蠣の殻剥き体験 (13:20~17:35)

- 折笠駅→折笠漁港の道中で映画「すずめの戸締まり」のモデル地を見学(聖地巡礼)
- 荒天のため、漁港内施設にて牡蠣の殻剥き体験、試食
- 漁師の方から震災時の体験談をお話してもらう(オリジナルコンテンツ)



↓ 車

訪問・体験② 山田町観光協会・震災語り部まち歩き (14:40~15:30)

- 新生やまだ商店街の方と山田町内を巡り、震災当時の被害状況、復興の道のりを見学
- 山田町として掲げる「津波による犠牲者を一人も出さない」町づくりのいきさつを伝承施設において資料や映像を通して学ぶ



宿泊：市内ホテル(夕食：市内飲食店)

11/26 (日)

↓ 三陸鉄道リアス線

見学・体験③ 田老学ぶ防災ガイド

(9:00~10:00)

- 宮古観光文化協会の鈴木氏のガイドで田老駅周辺の被災地を巡る
- 被災当時の状況や復興の様子を聞きながら現在の様子を見学
- 防潮堤などで津波が到達した高さを目の当たりにし、最後はたろう観光ホテルにて、被災当時の貴重な映像を視聴



※ 紫枠の事業者とは事前にオンラインミーティングを実施

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の実組詳細

令和5年度実施結果に基づいた次年度への取り組みについて

第3回意見交換会では、参加した若者が自分たちで訪問したいところを考え、現地の方から直接話を伺って気づきを得ることができたという点で良いプログラムだったとの評価を得ている。反省点として、周知の開始時期が遅く、参加者が集まりにくかったかったことが挙げられた。周知タイミングを早め、いわて高等教育コンソーシアム事務局に連絡し、参加者の感想もまじえ企画内容を説明するなどの工夫が必要といった意見、参加者ターゲットを絞り込むと良いのではないかという意見、さらに、取組当日の行程内容に関して、現地の方々と連携し、参加者に多くの出会いや体験を提供できる体制にする必要が課題として挙げられた。

次年度の実組について、この取組を継続すべきということで合意が得られたが、周知時期の早期化、テーマを設定した上での行程企画・参加者のアプローチ、大学生以外の例えば地域おこし協力隊等に対する参加者募集の充実、現地のNPO団体等の協力打診等の意見があげられた。

令和7年度が協議会の最終年度とするならば今後、どうするか3県合同でのイベントも検討しつつ、令和8年度以降の自走も見据えた取り組みを協議していければと考えております。

今回、イベント運営事業（会議運営・実践の場・招待状WS）を株式会社読売エージェンシーが取り扱うこととなりました。昨年度までの良い部分を継承しながら進めていきたいと考えますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

● 4. 今年度の取組方針

今年度の取組方針（企画の方向性）

○ 三陸沿岸と岩手内陸を繋ぐ

- 内陸の高校生・大学生による「沿岸部復興状況の広報」「観光魅力発信」を目的とした動画取材活動を展開
- 若年層目線で取材・編集した動画を「新しい東北」公式YouTubeにて配信
- 中高生向けの新聞/高校生向けフリーペーパーへ記事掲載により参加者募集、完成動画の告知・誘引を実施

<イベントタイトル>

ユース

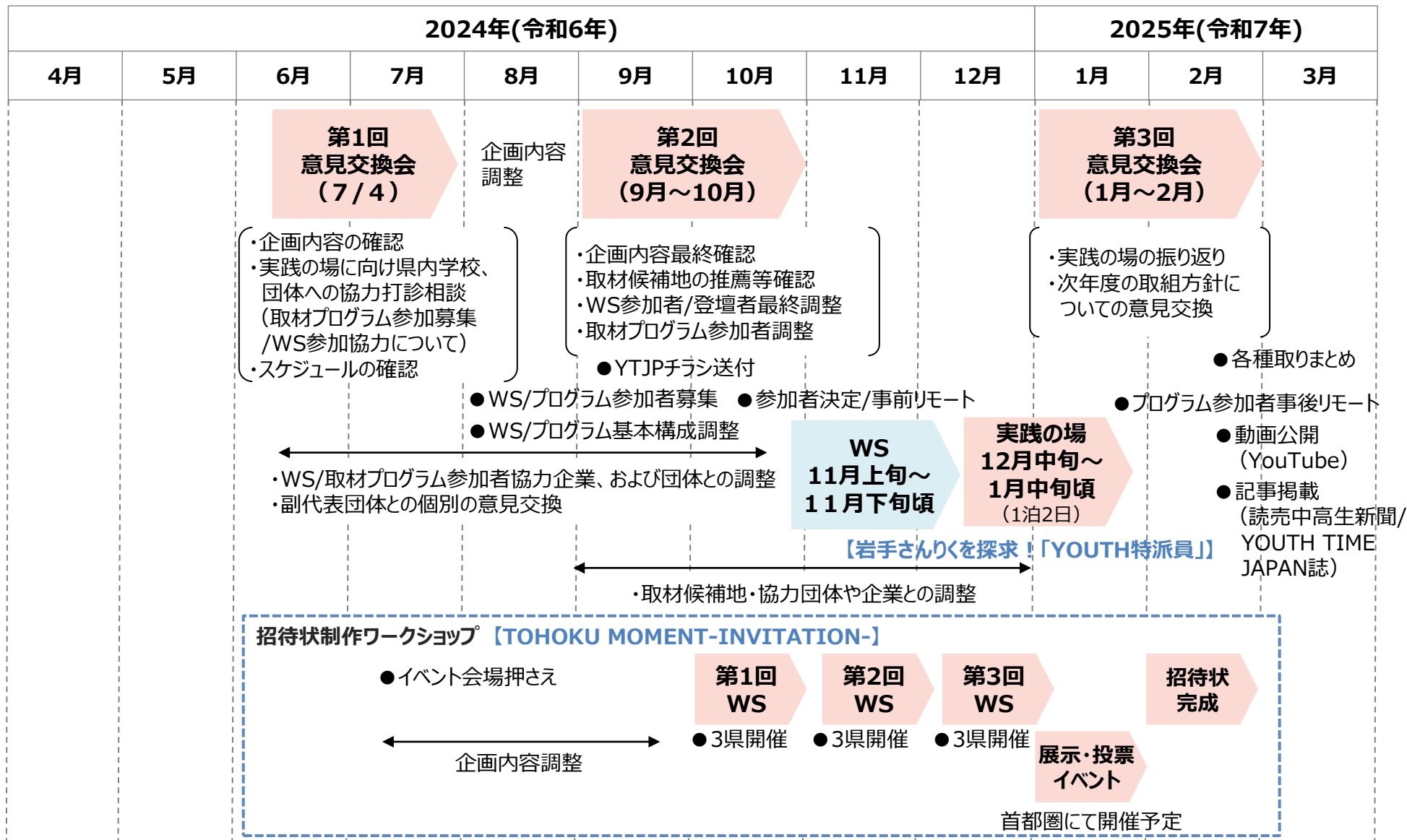
『岩手さんりくを探求！「YOUTH特派員」』

地域の方々の復興への体験や尽力に焦点を当て、乗り越えてきた困難などを若年層に理解しやすく伝えることをテーマに、プログラム参加メンバーが取材で体験し感じたことを継続的に探究していける内容を展開します

内陸部の高校生・大学生による取材プログラムチームが、復興を再確認し、気付きを得て
同世代である次世代層に向けて、動画による三陸沿岸部の魅力発信を行う

● 4. 意見交換会・実践の場のスケジュール

■今年度の意見交換会・実践の場のスケジュール



※スケジュールは今後の議論状況等により、変更の可能性がございます。

● 5. 今年度の取組内容について

①『岩手さんりくを探索！「YOUTH特派員」』 ワークショップ

地元の協力企業・協力者と共に、取材テーマについてディスカッションを開催。また、プロの映像ディレクターによる「動画で伝えること」に関する講演を実施。

開催時期	・ 2024年11月上旬～11月下旬の開催想定（1日開催）
会場	・ いわて若者カフェを想定
内容	・ 震災による被害・復興の過程・観光状況の説明（ゲストスピーカー想定） ・ 取材プログラム（テーマ・対象候補）の検討 ・ 取材エリア、取材順の検討（久慈エリア、宮古・釜石エリア、大船渡・陸前高田エリア）
主な参加者	・ YOUTH特派員メンバー（学生8名） ・ ゲストスピーカー（地元協力企業・協力者・復興活動に関係する方） ・ プロの映像ディレクター（1名＋アシスタント）
目的	・ 震災による被害、復興の過程、観光状況の基礎を理解する ・ 動画撮影・制作に関する理解を高める
実施内容	■ 当日の進行イメージ <10min> 「企画の趣旨説明(復興庁ご担当者様想定)」 <50min> 「震災による被害・復興の過程・観光状況の説明」 ※地元協力企業・協力者・復興活動に関係する方をスピーカー想定 <10min> 休憩 <70min> 「取材プログラムのテーマ・計画の検討」 ・YOUTH特派員は事前のリモートMTGにて、当日までに課題に対してのアイデアを準備、その内容を発表します。 <10min> 休憩 <60min> 「動画撮影・制作に関する説明（プロの映像ディレクター）」 ・動画で多くの方に思いを伝えることの意義的なことも踏まえ、動画制作に対しての意識を高めます。

● 5. 今年度の取組内容について

②『岩手さんりくを探索！「YOUTH特派員」』取材プログラム

震災からの復興活動を再確認し、『将来の仕事・地域コミュニケーションなど様々な取り組みにおける「糧」となる取材プログラムを実施。プログラムで培った『気付き』は動画コンテンツとしてアーカイブ化することで、同世代・次世代層への共有を図る

開催時期	・ 2024年12月中旬～2025年1月中旬の開催想定（2日開催）※1泊2日想定		
会場	・ いわて若者カフェ（出発・最終MTG）を想定 ※最終MTG会場は、スケジュールによって現地開催も検討		
内容	・ ワークショップで設定した取材地を訪れて取材を行う。 ・ 震災からの復興において、当事者の方々の活動と意思を取材する。 ・ 若者目線で、沿岸エリアの観光的魅力の発掘する。	【取材内容】	▶ 漁業関係者へのインタビュー ▶ 震災の足跡が確認できる施設のレポート ▶ 観光PR用のドローン撮影 など
主な参加者	・ YOUTH特派員メンバー（高校生・大学生：8名） ・ プロの映像ディレクター（1名＋アシスタント）		
実施内容	・ 開催前に参加者（YOUTH特派員）に対して、全体オリエンを実施します。 ・ 途中、アウトプットとなる動画の基本構成共有ミーティングを実施します。 ・ 取材終了後、いわて若者カフェに戻り、参加メンバー全員で取材時の感想、動画制作に関するミーティングを実施します。 ※円滑に進行することを目的に、映像ディレクターは事前にロケハンを実施します。		
取材映像	・ 約30分程度の映像を想定 ・ 「復興」「観光」の2つをテーマとして構成 ・ 基本構成は参加者が行い、最終的な編集作業は参加したディレクターの基でプロダクションによる編集を想定		

③取材動画の公開・取材レポートの記事掲載

開催時期	・ 2025年2月中旬以降を想定
動画公開	・ 「新しい東北」公式YouTube
記事掲載	・ 読売中高生新聞 ・ YOUTH TIME JAPAN誌（フリーペーパー）

● 5. 今年度の取組内容について

■ 確認事項

岩手さんりくを探索！ 「YOUTH特派員」

ワークショップ/ 取材プログラム

- 県内学校、団体への取材プログラム参加者募集協力の打診について、紹介いただける企業・団体の確認
 - ・取材プログラム参加者：岩手県内陸部の学生（高校生・大学生）
 - ・ワークショップ開催時スピーカー：地元協力企業・協力者・復興活動に関係する方
 - ・取材対象の紹介：ご紹介いただける方、こちらがアプローチしたい方のご紹介
- エリア設定について
 - ・現状の3エリア設定（久慈エリア／宮古・釜石エリア／大船渡・陸前高田エリア）
 - ・1エリアに絞り込んで掘り下げる構成も考えられるため意見を伺いたい
- 「ワークショップ」「実践の場」開催日程の調整
 - ・いわて若者カフェとの会場調整（担当窓口をご紹介いただきたい）

招待状制作 ワークショップ

- 開催スペースをご紹介いただけるか
 - ・現状は、いわて若者カフェ・盛岡駅近隣の会議スペースを想定
- 銘菓賞品の準備について
 - ・推薦される商品、紹介いただける購入先
- 必要に応じて、各所観光協会担当者の紹介

■ イベント事務局アドレス（株式会社読売エージェンシー）

new_tohoku_event@yomiuri-ag.co.jp 担当者：鈴木、菊池

● 6. 招待状作成ワークショップについて

■ 招待状作成ワークショップ TOHOKU MOMENT - INVITATION Workshop -	
東北3県の自然の美しさ、文化、そして震災からの復興へ向かう生活の一瞬一瞬を捉え、人々に深い印象を与えることで、国内外から東北3県に人を引き付ける全世界に向けた招待状の制作を行う	
開催時期	・ 1回目：2024年10月想定（岩手・宮城・福島） ・ 2回目：2024年11月想定（岩手・宮城・福島） ・ 3回目：2024年12月想定（岩手・宮城・福島）
会場	・ 岩手県/盛岡市内、宮城県/仙台市内、福島県/福島市内
内容	各県ごとにワークショップ開催し、招待状の構成などを考案する。観光地の他、企業や人物にもクローズアップすることをテーマとする。各県とも観光地を10箇所程度、企業や人物も各1コンテンツ程度を構成する。
主な参加者	・ 各県20名程度の参加者を応募
実施内容 (案)	・ 1回目：候補地の洗い出し・紹介企業や人物のイメージ設定・担当分け ・ 2回目：候補地・企業・人物の決定・文字構成案・ページネーション構成 ・ 3回目：企業・人物の取材・文字構成・最終調整（対応言語数調整中）



■ TOHOKU MOMENT – EVENT -	
首都圏のイベントスペースにて、ワークショップで校正したページをパネル化した展示イベントを開催。魅力を感じる場所に投票してもらうことでインバウンドや、イベント開催エリアの方たちの目線も通して、魅力的な東北3県のガイドブックを完成させる	
開催時期	・ 2025年1月中旬～2月上旬想定
会場	・ 東京（渋谷など）など首都圏1会場にて2日間の開催を想定
内容	・ 3県の校正ページを拡大（A4～B3サイズ程度）展示する。 ・ それぞれに投票用ナンバリングを実施し掲出します。※企業・人物紹介パネルは投票対象から除外する。 ・ 投票完了画面をスタッフに見せて、3県の銘菓が当たるガラガラ抽選会に参加いただく。